

今月は11月が舞台のこの物語です。

『十一月の扉』

高楼 方子／作 千葉 史子／絵 講談社 2011年 945円

<お勧め年齢>

乳幼児☆☆☆ 小低学年☆☆☆ 小中学年☆☆☆ 小高学年★★★★ 中学生★★☆
高校☆☆☆ 一般☆☆☆

(★が多い年齢の子どもにお勧めです。)

<本の紹介>

弟の双眼鏡をのぞいて偶然見つけた下宿屋「十一月荘」。時を同じくして父の転勤が決まり転校することになった爽子は、両親に頼み込んで学期が終わるまでの2ヶ月間十一月荘に下宿させてもらうことになる。

家主で元教師の閑さんをはじめ、建築士の苑子さん、小学生のるみちゃんと馥子さん親子、十一月荘に住む素敵な人々とともに暮らす2ヶ月間。孤独ながらもわくわくした気持ちで背筋を伸ばし暮らす爽子は、十一月荘の近くの文具屋で手に入れたノートに物語を書くことに決める。それは十一月荘にまつわる人々にそっくりな動物たちが出てくる物語だ。

<子どもに手渡すときのポイント>

今回の表紙画像は講談社青い鳥文庫版ですが、これ以外にリブリオ出版から出ている単行本、新潮社から出ている文庫本の3種類があり、挿絵がそれぞれ違います。高学年以上の子どもにとって本の見た目も本を選ぶ重要なポイントです。それぞれの子どもにあった本を紹介してあげてください。



このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店にあります。ぜひ手に取ってみてください。

総合図書館 重村 さやか